

レバノンにおけるアラブ古典音楽の保存と伝承

—2013年初春現地調査から—

酒井絵美 (東京芸術大学大学院)

本発表は、2013年2月中旬～3月上旬に滞在したレバノンの首都ベイルート近郊での調査に基づく報告である。アラブ古典音楽の保存及び伝承方法についてアーカイブセンター、総合大学の音楽学部という二つの場での事例を紹介する。

Arab Music Archiving & Research (以下 AMAR) は伝統的なアラブ音楽の保存と普及を目的として作られた施設で、主に 1903 年から 1930 年代の大変貴重な録音を約 7000 本 (時間数にして 6000 時間程度) 保管している。AMAR では現在これらのデジタル化及び公開を進めており、例えば一昨年には 20 世紀初頭のエジプト人歌手ユーセフ・アル＝マンヤラーウィーの CD (全十巻) とブックレットのコレクションを出版した。これは 1905 年から 1910 年の SP 録音を CD 化したもので、ウムム・クルスームに代表される「新古典」音楽以前の音楽様式や詩型を納めている例としても大変重要である。また、アラブ首長国連邦の機関と協力し podcast で配信するなど、先進的な取り組みを続けている。

続いて、発表者がアラブ・ヴァイオリンやアンサンブルの授業を受講し、ワードやナーイ、歌唱の授業を聴講したアントニン大学の高等音楽院 (以下 ISM) を紹介する。ベイルート近郊には主要な音楽教育機関が二つあり、もうひとつのレバノン国立音楽院は西洋芸術音楽のオーケストラやアラブ音楽を演奏するオーケストラを擁している。これに対して、ISM は学士・修士の学位を授与する権限をもつ学部レベルの音楽院であり、院長はアラブ・ヴァイオリニストのニダー・アブー・ムラードである。レバノン国立音楽院と比べると小規模であるが、アラブ古典音楽を重視しており、また、ジャーナルの発行を通して音楽学の研究成果を国内外に発信している。ISM でのアラブ古典音楽の教習法は、まず教師による演奏を学生が録音し、覚え、自宅練習を行う、そして次の授業でそれを再現するが、教師が時には一緒に演奏して直していくという方法が主で、口頭伝承的であるといえる。

レバノンにおける古典音楽の保存、伝承についての課題は日本とも共通するものがあり、彼らの手法に学ぶとともに、相互協力の道を探ることも考えられる。